

世界の人びとのための J I C A 基金活用事業
終了時活動報告書・ニュースレター用報告書（2023 年度採択案件）

1. 業務の概要	
(1) 案件名	ジンバブエにおける女性音楽教師育成を通じた女性の地位・収入向上を目指すプロジェクト
(2) 実施団体名	特定非営利活動法人しまなみアートファーム
(3) 実施期間	2023 年 10 月 1 日～2024 年 3 月 31 日
(4) 実施国	ジンバブエ
(5) 活動地域	ハラレ・グウェル
(6) 活動概要	<p>①活動の背景：</p> <p>ジンバブエ社会において、音楽は非常に重要な位置づけであり、厳しい政治・経済状況の中、音楽をすることで夢や希望を持つとする傾向が強い。ジンバブエでは、2021 年より小学校指導要綱で音楽の授業が必須となっており、国策として「音楽」が重要な位置づけになっている。しかしながら、小学校での音楽指導が必要となっているものの、楽器がなく、指導者を育成できる人材も限られていることから音楽教師が不足している。また、ジンバブエでは女性の社会的地位が低く、女性が経済的に自立しづらい環境にある。そのため、人口の 48%を占めている子供に質の高い教育の機会を提供できる女性教師を育成し、音楽で女性が自立して収入を得る機会を創ること、社会的な地位を向上させることは重要である。</p> <p>現在、小学校の非常勤教員として働きながら、大学で教員免許取得を目指す女子学生も多いが、非常勤教員から本採用になるのは難しい。楽器の演奏指導ができるなど特別な技術を持つことで本採用につながりやすくなる。一方で、日本では小学校で鍵盤ハーモニカを購入する小学生が多いが、小学校卒業とともに不要となり廃棄されている。鍵盤ハーモニカは、持ち運びができ電気を必要とせず、壊れにくく、西洋音楽の導入として、ジンバブエの環境に適した楽器である。研修生一人に一台ずつ配布できるだけの数を日本で集めることができることから、日本で使われなくなった楽器を使い、ジンバブエで音楽教師を目指す女性のエンパワメントに活用し、女性の地位や収入の向上へ繋げる活動を立案しジンバブエで実施することとした。</p> <p>②活動の目標：</p> <p>女性音楽教師育成を通じた女性の地位・収入向上を目指すため、女性音楽教師の指導者の楽器演奏技術の向上と指導マニュアル充実のための活動を行う。</p> <p>【達成目標】</p>

- ・2024年3月までに7名の指導者が鍵盤ハーモニカで初心者用のピアノ教本1冊と10曲程度のジンバブエ民謡や世界の音楽を演奏できる程度の技術を身に付ける。
- ・指導者が音楽教師を目指す学生に対し自立して指導が行える内容の指導マニュアルが作成される。

【活動予定】

2023年10月	ジンバブエ渡航 2023年3月からの指導者育成の成果の確認(研修生への授業のモニタリング)、指導者への対面研修、課題洗い出し
2023年11月から	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者に対してオンラインによる技術指導の継続(2回/月) ・指導者は所属の大学、音楽専門学校にて対面で研修生に楽器指導を開始(2回/月) ・指導者が行う研修生への対面指導状況をモニタリング(指導者からのレポートや必要に応じてオンラインで研修に参加)、適宜助言を行う ・指導者の研修生指導経験を踏まえた意見を取り入れながら研修生指導マニュアルの内容の充実を図る
2024年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者・研修者のレベル評価 ・指導マニュアルの完成

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容

【実施内容① 指導者育成】

Music Crossroad Academy Zimbabwe(以降、MCAZ)の講師2名を指導者として育成するため、研修を実施。受講者は、技術指導用の課題曲を演奏している様子の動画を日本側へ送信し、団体代表がフィードバックを送信する形で月に2回の頻度で遠隔指導を実施した。2023年11月現地渡航時には対面で指導を行った。

【実施内容② 指導マニュアル作成】

指導者として育成しているMCAZの講師2名への研修生指導経験のヒアリングを行い、指導マニュアルを作成した。指導マニュアルには、研修生がつまづきやすいポイントを重点的に解説し、西洋音楽の基本技術を指導するためのヒントや、ジンバブエの民謡や国歌の楽譜を取り入れた。

【実施内容③ 研修生への指導】

1)MCAZ

現地指導者により音楽教師を目指す研修生に対し、対面研修を月2回継続実施した。2023年10月には、修了試験を目指して育成中指導者により週1回対面研修を実施した。研修内容は、音楽教師として実践的な技術が身につけられるよう、鍵盤基礎スキルに加え、ジンバブエの民謡や国歌なども演

奏できるよう指導を継続した。研修の実施状況について毎回レポート提出を受け、指導内容についてアドバイスを行った。2023年11月の現地渡航時には、団体代表による対面での指導、最終日には第1期研修生の修了試験を実施した。修了試験の後、修了式とコンサートを開催した。第1期研修生への研修は、2024年1月より月2回ペースで再開し、2024年4月には当初予定していたレベルに達するための補完研修完了予定。

加えて、今後研修プログラム導入を検討中で、2023年11月現地渡航時に視察に行った女子高の音楽科教師1名と、スラム街の女子と子どもサポートセンターのアート講師1名に対し、MCAZの指導者2名による指導の下、2024年1月より週1回の頻度で研修を開始、現在も継続している。

修了式の様子 (<https://www.youtube.com/watch?v=ufRgpODFCWQ>)

2) Midland State University (以降、MSU)

2023年11月現地渡航時に、11台の鍵盤ハーモニカと教材10冊を追加寄贈し、MSUグエル校にて音楽科生徒20名に対し、2日間対面研修を行った。MSUは、即戦力となる音楽教師育成を目指し、西洋音楽の体系的な教育方法や、鍵盤ハーモニカを活用した鍵盤技術習得のための授業の導入を検討しているため、MSU音楽部長、講師とともにカリキュラム構築に向けた会議を実施。その後も、月1回の会議を通じて具体的な連携について対話を継続している。

【実施内容④ 事業拡充のための活動】

日本全国から不要になった鍵盤ハーモニカを集め、ジンバブエのカウンターパート団体に寄贈した。また、楽器寄付や本事業の支援者を増やすため、当団体の活動紹介を中心に、以下の活動を行った。

- ・活動報告会(2回)
- ・大三島での当団体が実施したイベントで活動写真を展示して活動紹介
- ・楽器募集のチラシを作成・配布
- ・SNSや団体ホームページから楽器募集の呼びかけ
- ・団体事務所のある今治市のNPOサポートセンターの広報誌への毎月継続掲載
- ・活動資金調達クラウドファンディング (<https://congrant.com/project/nposafm/9099>)

(2) 実施成果：

【実施内容① 指導者育成】

指導者育成研修を通じて、鍵盤ハーモニカで初心者用のピアノ教本1冊と10曲程度のジンバブエ民謡や世界の音楽を演奏できる程度の技術を身に付けた指導者2名が育成された。育成された指導者は、研修生への研修運営にも自発的に取り組んでいる。研修生への研修の実施状況について、写真付き報告書の提出や研修生の演奏動画共有により進捗状況がモニタリングできる体制が整った。このような指導者が育ち、現地研修が現地指導者によって運営されている。

質の高い指導者(音楽の能力だけではなくプロジェクト運営に必要な以下のことができる指導者；関係者間でPCやその他デバイスを使用し情報の共有や報告書の作成などの事務的な作業ができる、研修の運営ができる、指導者として向上していく意思がある)の育成ができています。

【実施内容② 指導マニュアル作成】

育成指導者への研修実施経験のヒアリングを通じて、現地事情に適した指導マニュアルの作成ができた。目標としていた自立して指導ができるレベルの内容のマニュアル(指導時に気をつける点や、重

要なポイントなどの解説や曲の難易度や演奏方法、運指などを記載)となっている。作成した指導マニュアルを活用し、後続の指導者が早期に育成できるよう指導を行なっていく。

【実施内容③ 研修生への指導】

1) MCAZ

最後まで研修に参加した研修生 8 名のうち、修了試験では、合格者 6 名中 5 名が 90 点以上の高得点、2 名が不合格となった。その後、再試験を実施し 8 名全員が修了試験に合格することができた。修了試験後に開催した修了式・コンサートには、総勢 60 名強が参加した。文化庁芸術部門長、MCAZ 校長、MSU 本校から教授などが出席し、修了生に向け祝福のスピーチを行った。修了者には、修了証、成績表、働いている学校で子どもたちに教え始めるために鍵盤ハーモニカ 2 台を授与。証明書が重視される社会で修了書を授与されることで修了生の自信に繋がった。コンサートでは、修了生による演奏を披露し、G/P やプログラム参加者家族と共に、研修成果を共有できた。コンサートでは、海外協力隊や支所関係者も演奏参加に協力いただき、日本の国際協力事業について現地の人々に知ってもらう良い機会となった。

また、第 2 期生として 1 月から育成中の女子高音楽科教師 1 名と、女性と子どもサポートセンターのアート担当講師 1 名の研修開始。

2) MSU

現在までに 20 台の鍵盤ハーモニカと 17 冊の教材を寄贈したことで、楽器や教材が不足し、楽器を活用した授業が受けられていなかった学生が実際に楽器に触れて学べる環境が整った。今後、作成済みの指導マニュアルを活用しながら、即戦力となる音楽教師育成を目指し、西洋音楽の体系的な教育方法や、鍵盤ハーモニカを活用した鍵盤技術習得のためのカリキュラムの構築への対話を継続していく。

研修で使用する楽器について、書類不備により税関で保管されていた 25 台の鍵盤ハーモニカは、2024 年 3 月初旬に回収し、研修中の第二期生の研修修了に合わせ、女子高と女子と子供のサポートセンターに寄贈予定で G/P の事務所内で保管されている。今回の経験を通して、楽器を現地に持ち込む際の手順を理解できたので、今後は、事前に書類準備をスムーズに持ち込めるようにする。

【実施内容④ 事業拡充のための活動】

楽器募集活動により、各地で楽器寄付の輪が広がり、今年度は 20 台を寄贈することができた。日本で不要となった楽器を活用して、現地で女性音楽教師育成が加速することが期待される。

2022 年以降集まった鍵盤ハーモニカ総数	84 台
2022 年以降ジンバブエに送付済み鍵盤ハーモニカ総数	76 台
その内 2023 年度送付済鍵盤ハーモニカ台数	20 台

(3) 得られた教訓など：

1. 2022年8月から開始した第1期生は、研修の実施体制や指導者の育成を試行錯誤しながらの実施であったため、修了試験のレベル設定が当初の想定より低いものとなった。当初想定レベルに近づけるため、修了式後も補完研修を行っている。第2期生からは、西洋音楽の基礎知識と鍵盤楽器の最低限の技術を身につけるためピアノ教本一冊を終了することを修了試験の受験資格とする。音楽教師として生徒に見よう見まねで教えるだけでなく、秩序立てて説明できるようにするためである。
2. 事業開始後、様々な理由があり研修生が研修を継続しない場合に、楽器を回収しようとしても難しく時間と労力を費やす必要があったため、楽器を渡す際に、研修生から研修参加義務、継続できない時に楽器を返還することを約束する旨の確認と同意書を作成した。今後、すべての研修生に同意書への署名を求める。
3. 修了試験後の参加者からの聞き取りで、女性の研修脱落者が多かった点について、「女性の方が家族の意向に左右されやすく、家族に鍵盤ハーモニカの研修に参加することが就職や、収入向上につながるということを示さなくてはならない」との意見が聞かれた。今後、第1期生からモデルとなる女性音楽教師が輩出されることで、社会全体へ女性のエンパワメントのメッセージとなるよう音楽教師として鍵盤ハーモニカを使用している場面などをモニタリングしていき、次期生たちに伝えるだけでなく、SNS等でも拡めていき、成果としてMSUとの関係構築や対話のなかで伝えていきたい。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

【指導者育成】

MCAZ 指導者 2 名及び、2024 年 3 月より研修を開始した MSU 講師 1 名を指導者として育成するための研修を継続する。

【研修生の指導】

1) MCAZ

第1期生の8名の補完研修を4月末まで継続し、第2期生新規5名の研修を5月から開始。1月から開始している2名を含め、計7名の研修を実施する。

2) MSU

キーボードクラス担当講師や音楽学部長と連携を図りながら、まずは、担当講師の実技技術向上と、教材を正しく理解し使用できるよう研修を実施し、カリキュラム導入へのモニタリング・対話を継続する。

2024 年度中に、第 2 期生修了証授与式・発表会、MSU 本校での鍵盤ハーモニカ授業導入に関する研修・モニタリングを目的として現地渡航を予定。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

1. 修了試験後に研修参加者8名と各人30分の時間をとり、研修についての意見や感想を聞き取った。参加者全員が鍵盤ハーモニカの可能性について言及していたのが印象的だった。小さい子どもでも扱える大きさで、電気を必要とせず、コンサート時にも見栄えがし、持ち歩きに便利で音楽の基礎知識が最小限の鍵盤で理解がしやすいとの意見が多かった。
2. 研修参加者からの感想として、日本人とのコミュニケーションや日本の曲を演奏することで異文化を体験する機会を得たと同時に、ジンバブエの民謡を演奏することで自分達の文化も再発見できたとのことであった。自身が演奏技術を教えることに専念していたために、参加者が文化的な発見に興味を持ち楽しみにしていたことが発見だった。
3. 聞き取りの中で、「“女子は楽器が弾けない””と言われていた中で、研修を通して楽器が演奏できるようになり、いつも女子を下に見ていた男子が実はそんなにできないということがわかった」という発言をした女子研修生がいたことが、ジンバブエの女性の立場を反映しているエピソードだと思った。
4. 研修参加者は、鍵盤ハーモニカを弾くことに苦労して自信のない姿ばかり見ていたが、修了式のコンサートでは、歌を歌い踊り、ジンバブエの楽器を演奏するなど、自信たっぷりに披露していたのが印象的だった。
5. 修了証授与式では、SAFMが発行した修了証を受け取った研修生本人だけでなく家族も飛び上がって喜んでいる姿を見て、ジンバブエ社会における修了証の重みを感じた。

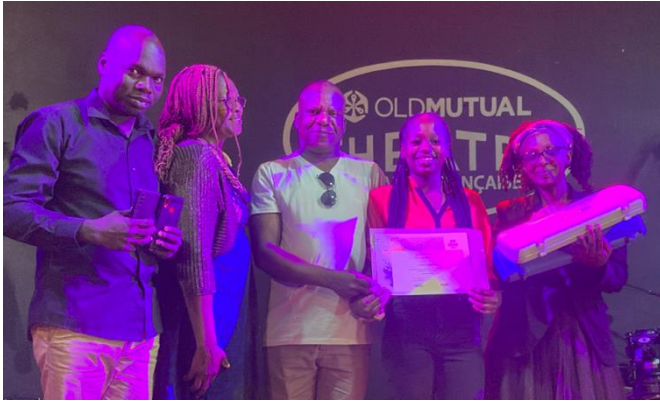
(2) 活動の写真



1.修了試験



2.コンサートリハーサル



3.修了証授与



4.コンサート



5.第2期生への研修育



6.MSU 学生への研修

(3) JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点

- ・ジンバブエ社会の現状に通じた JICA ジンバブエ支所の助言やサポートが得られたことで、現地情報や具体的な留意点を踏まえ、円滑に事業を実施することができた。
- ・伴走支援者を配置していただき、2年続けて同じ方に担当していただいたおかげで、事業開始当初からの事情を熟知していただけているために、実情に即した助言を頂けたことが事業を進めていく上で役に立った。

4. 伴走支援制度について

(1) 事業を実施した率直な感想を記載ください。

2021年8月創設の若い団体であるため、ジンバブエ事業開始当初は、団体としての運営基盤も整っておらず、手探りの状態からの開始でした。伴奏支援があったおかげで、どのような点に気をつけて事業を進めていくべきであるのか意見を伺いながら進めることができたので非常に心強かったです。そして、活動開始当初から振り返ると、現地事情も少しずつ理解が進み、現地関係者との信頼関係も徐々に構築され、着実に活動は前進していると感じています。

(2) 事業計画策定や業務進捗のモニタリング等の際に伴走支援者から受けた助言が本事業においてどのように役立ったか、具体的な事例があればご紹介ください。

客観的な視点で活動へのフィードバックをいただけることは、活動当事者として前のめりになりがちなところ、新たな観点で物事を見る良いきっかけになりました。事業を進める中で、計画通りに進められていないことを、ネガティブに捉えずに、「このような難しい点がある」といったことがわかったということをも成果として柔軟に考えていただけたことで、腰を据えて活動することができました。活動支援者の増やし方や、ファンドレイジング等、団体運営に関する助言もいただけたことは、事業を支える団体の組織力強化に繋がったと考えています。

(3) 上記2点を踏まえ、団体の成長となった部分や活動の成果、本事業を通じた学びや今後の方向性について記載ください。

組織力の強化は今後も引き続き取り組んでいく重要な活動の一つです。本事業を通じて、現地での協力者との関係構築だけでなく、活動の成果を報告する場を設けたことで、国内の支援者も少しずつではありますが増えてきていると感じています。今後も、活動を支える団体の組織力強化を継続していきます。

以上